

J A 西三河におけるスマート農業実証を通じた産地発展への取組



愛知県西尾市(JA西三河管内)

主要な作物は

抹茶の原料となるてん茶

水稲、小麦、大豆を中心とした水田農業

酪農、養豚、鶏卵などの畜産

いちご、きゅうりなどの施設野菜

カーネーション、洋ラン等の施設花き など



JA西三河WEBより

施設関係では、積極的に環境モニタリング機器や環境制御機器の導入が進む

スマート農業への取組経過（例きゅうり部会）

H26年(2014)～

- ・あいち経済連・JA西三河とICT活用を実証

H27年(2015)

- ・JA西三河ICT導入事業

H28年(2016)～H30年(2018)

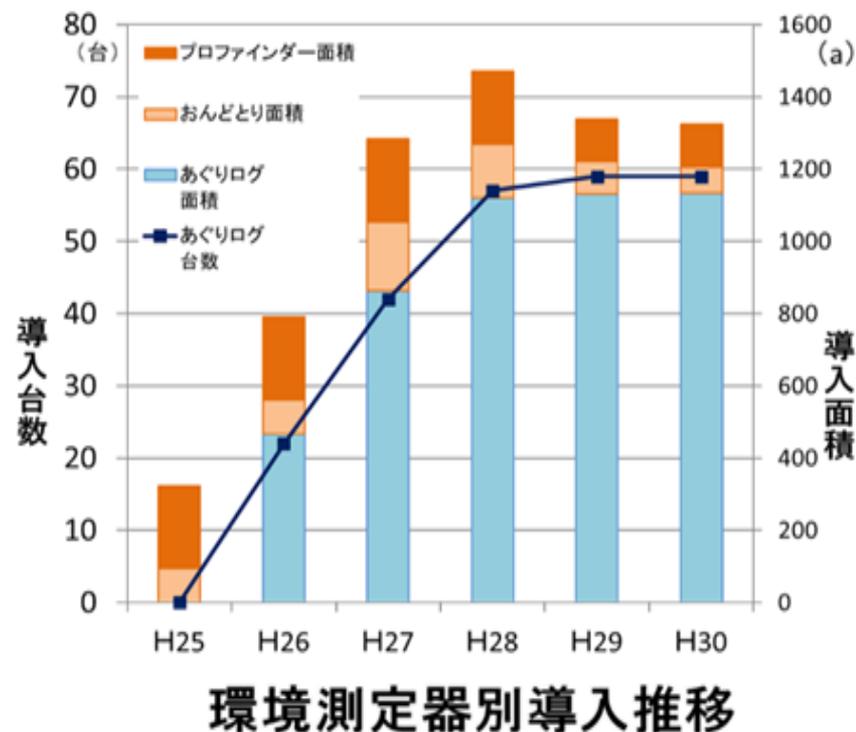
- ・あいち型植物工場推進事業の活用

勉強会の実施
あぐりログ導入

H29年(2017)

- ・産地パワーアップ事業の活用

○環境制御機器の導入が進み、積極的環境制御が加速



R 1 からスマ農プロジェクトに取り組む (きゅうり部会)

【R 1 ~ 2】 ICTに基づく養液栽培から販売による施設キュウリのデータ駆動経営一貫体系の実証

① 養液栽培+ICT

- ・周年栽培による単収の増加、雇用確保
- ・土壌管理時間の削減



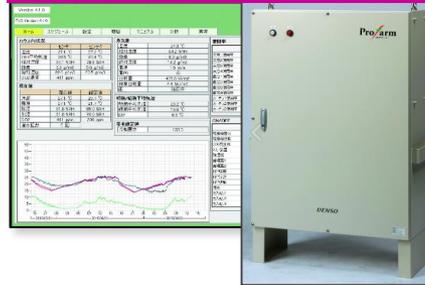
② 養液土耕栽培

- ・養液栽培データを応用することによる栽培技術の向上



③ 統合環境制御機のプログラム改良

- ・ハウス内環境の改善
- ・自動化による省化



栽培・収穫

調製作業

出荷・販売

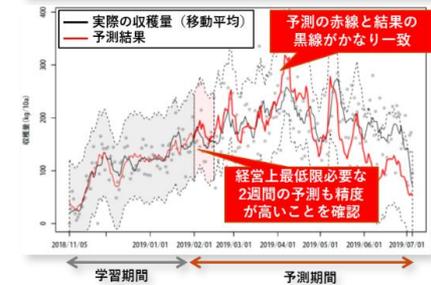
④ あぐりログ、植物生体情報計測ロボットおよび光合成チャンバーによるリアルタイムモニタリング

- ・環境データ、植物生体データを活用した栽培技術の向上



⑤ データ分析

- ・生育、収量予測による有利販売、労務管理

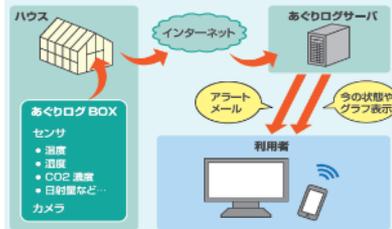


R1からスマ農プロジェクトに取り組む（きゅうり部会）

【R3～4】JA西三河における生産から流通・販売のデータ駆動一貫体系の実証

環境データの収集

・モニタリングシステム（あぐりログ）を導入。蓄積されたデータを出荷量予測に活用



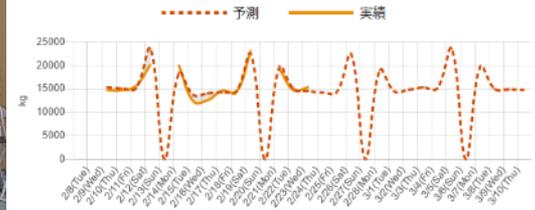
袋詰め機の高度化

・商品形態を産地で決定



販売に活用する出荷量予約モデルの構築

・産地全体で出荷量予測を実施、販売に活用



栽培・収穫

調製作業

出荷・販売

実証項目

- 1 出荷予測を用いた安定販売
- 2 需要に応じた袋詰め形態の販売
- 3 出荷情報（出荷予約・予測）を用いた配送の適正化

配送に活用する出荷予約モデルの構築

・事前に出荷量を配送業者に提供することで配送を効率化

